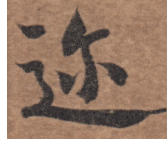


遠くも近くも諸国が一体となり



か



じ

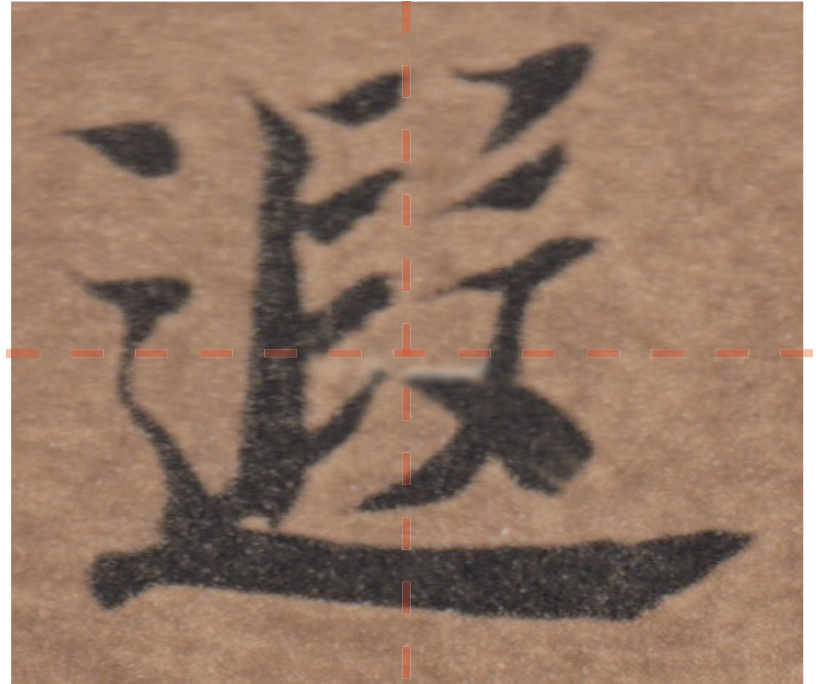
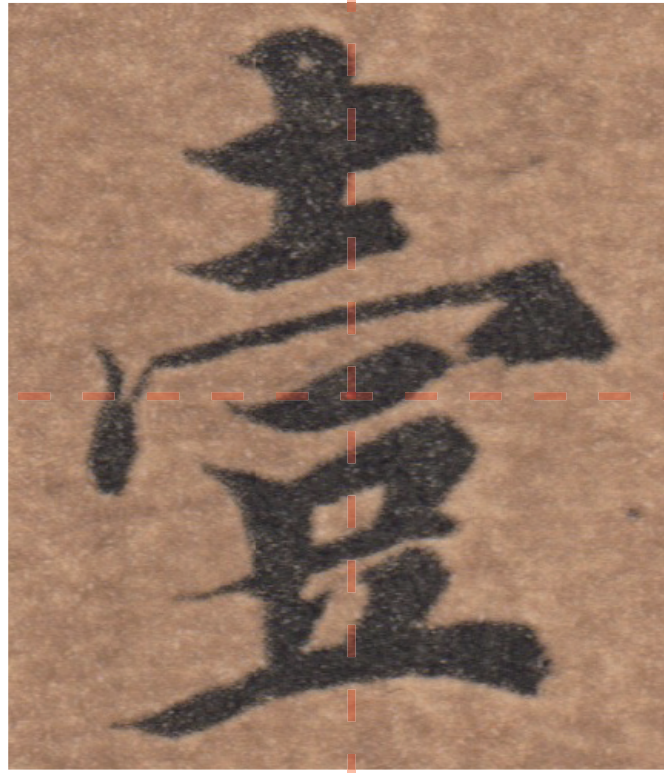


いっ

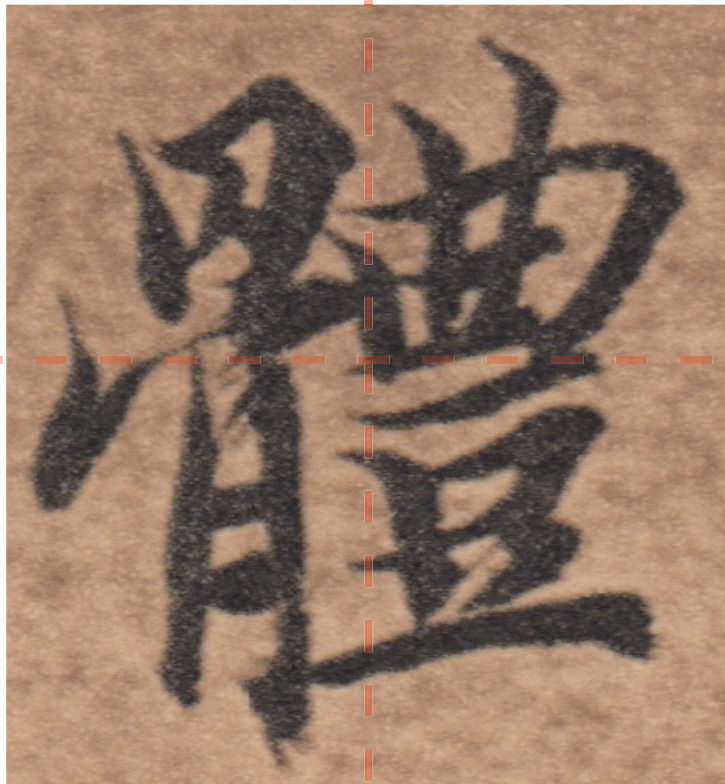


たい

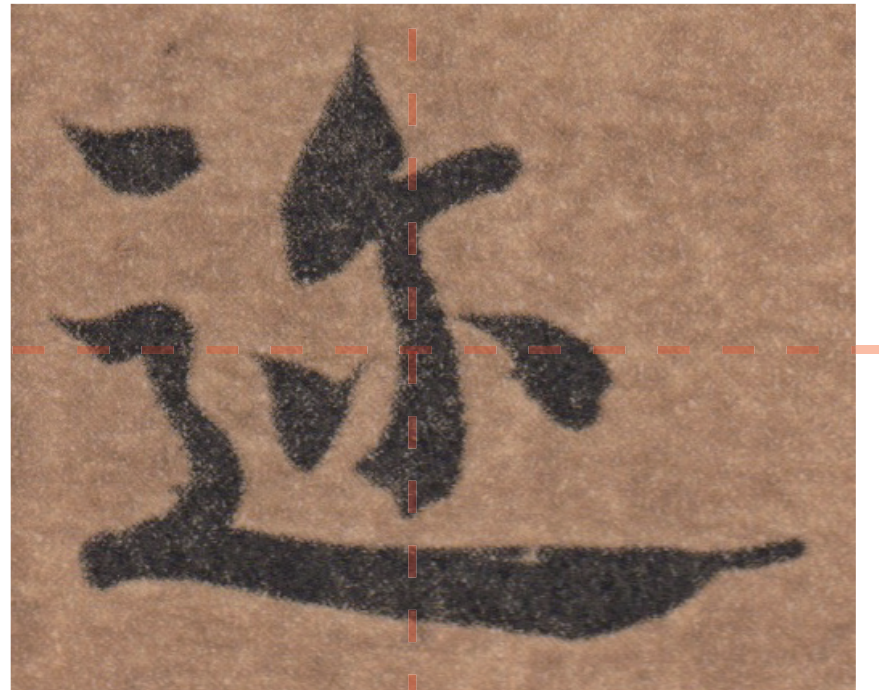
※壹と同字、一と同じ意味



麻



※体と同字



地の果ての人々までも王に従う

率

そつ

賓

ひん

王

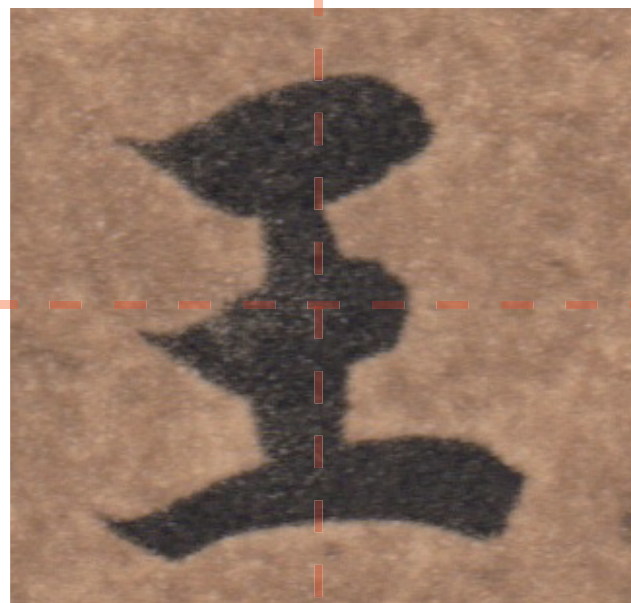
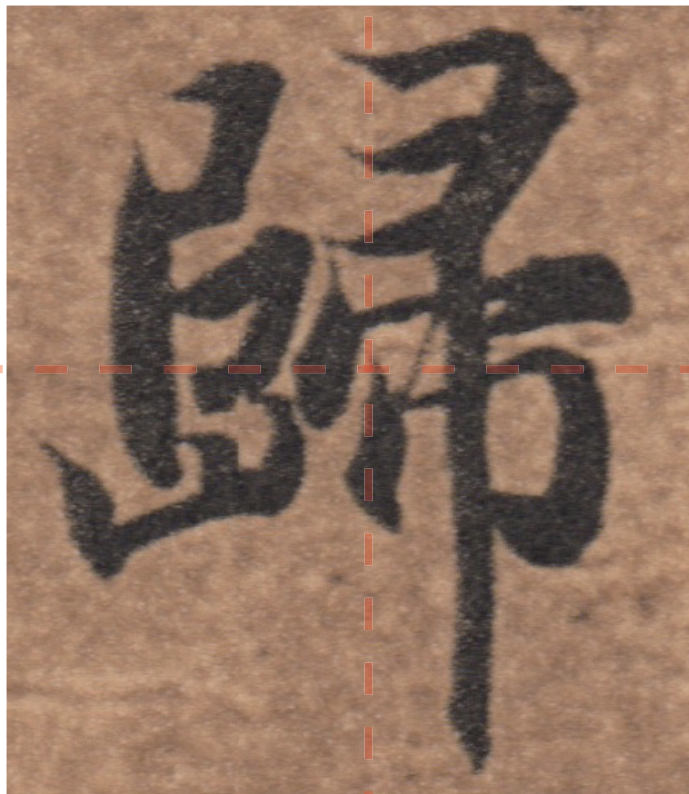
おう

に

歸

き

す。



微

陽

真

(天下を治める名君がいる時は) 鳳凰が樹上で鳴き、

鳴

めいほう

鳳

樹

じゆ

に

在

あ

り、



庚



(王に意見を求めにきた) 賢者の白馬は草を食む。

白

はく

駒

く

場

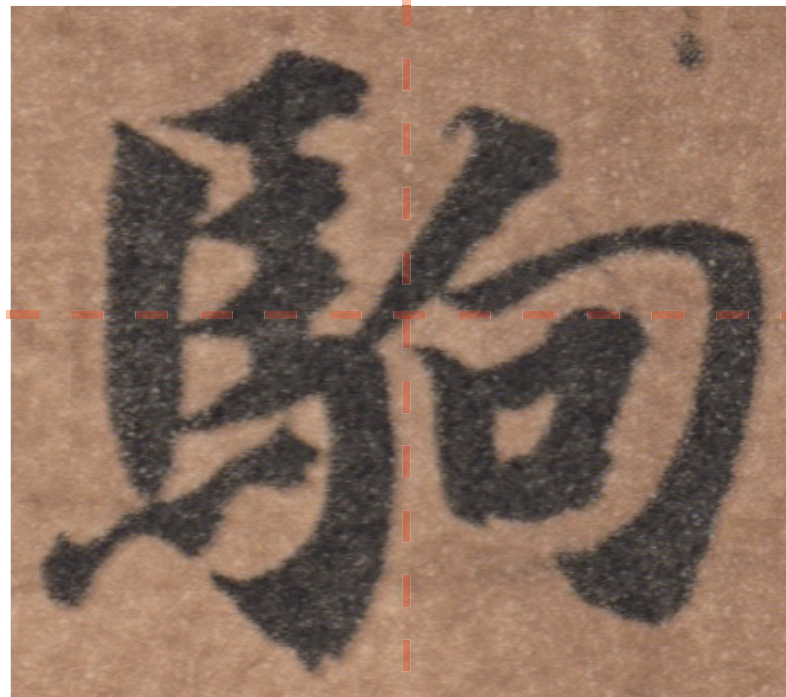
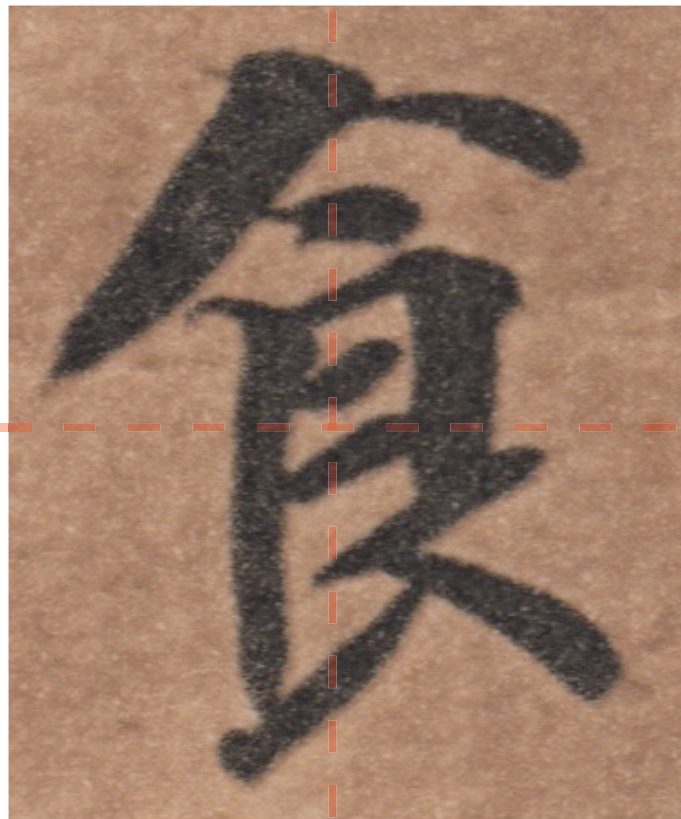
じょう

に

食

は

む。



陽

虞

名君の徳化は草や木にまで及び、

化 か

は

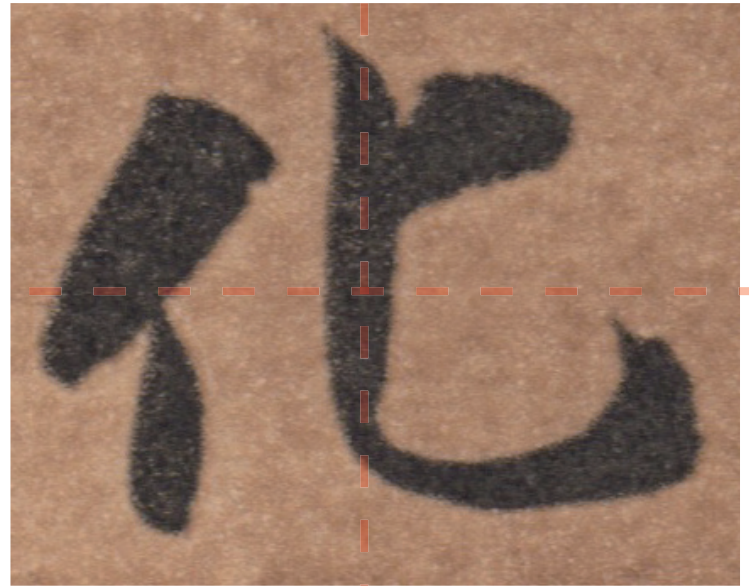
草 そうもく

木

を

被 おお

い、



民の幸さいわいは国々に満ちる。

頼 らい

は

萬

方

に

及

ぶ。

らい

ばんぽう

およ



陽

おおよそこの身体髪膚は、

蓋

けだ

し此

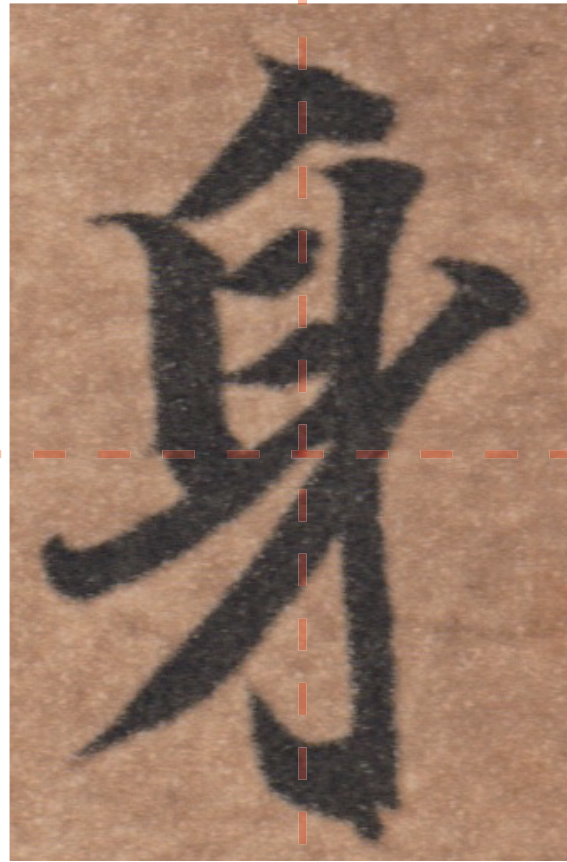
こ

の身

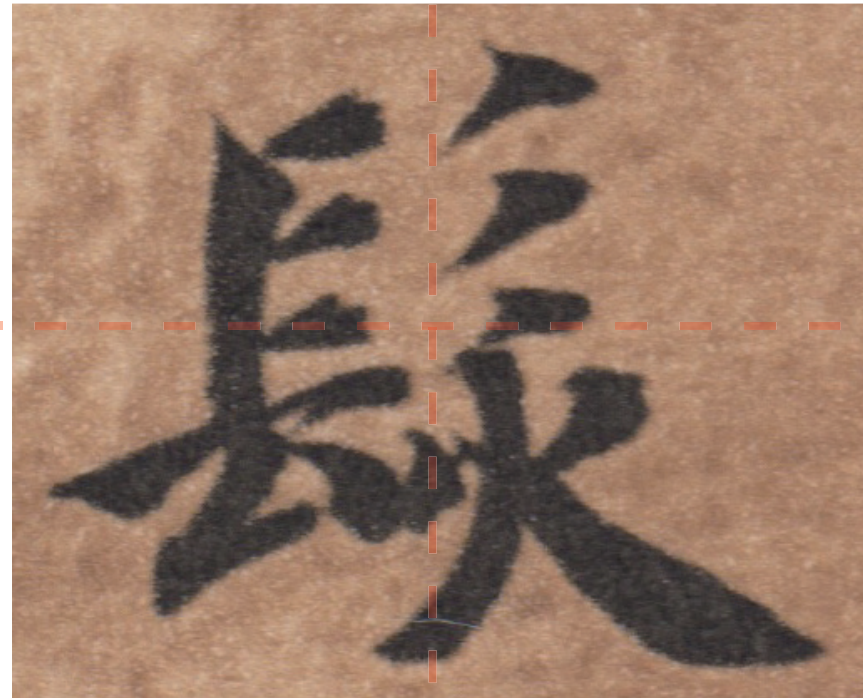
しんぱつ

髪

は、



真



仏教でいう四大（地水火風にたとえる）から成り、
五常（仁義礼智信）の道を修めて行くのである。

四

し

大

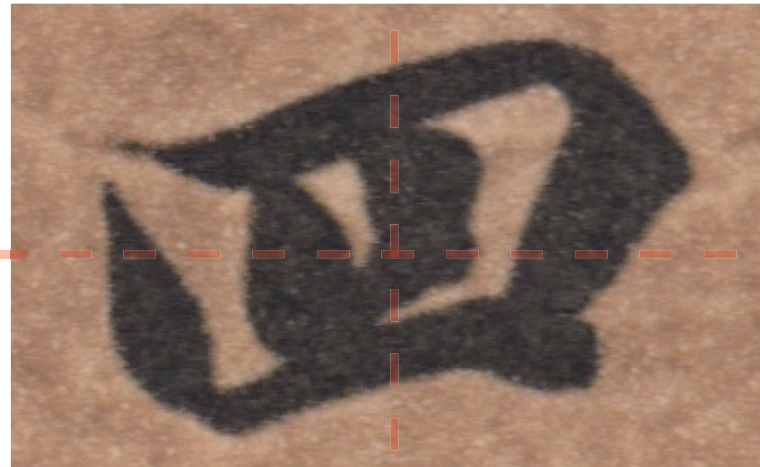
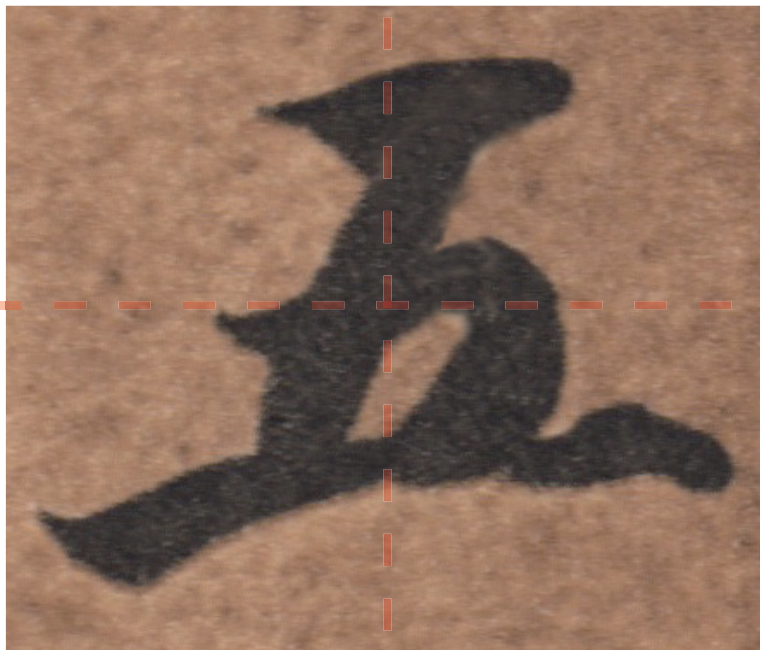
たい

五

ご

常

じょう



陽

恭しく両親に養育されたことを忘れずに思う。

恭

うやうや

しく

鞠

きくよう

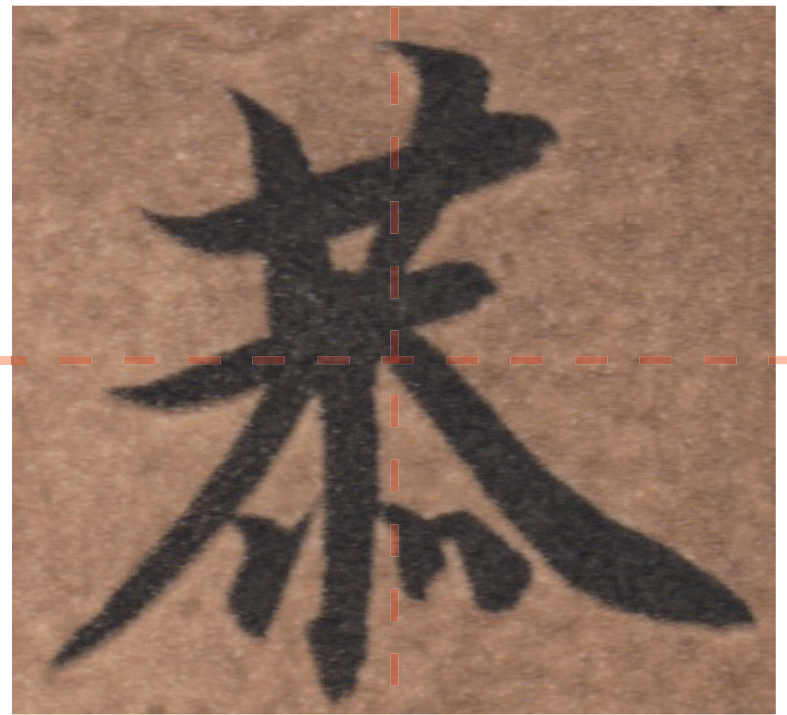
養

を

惟

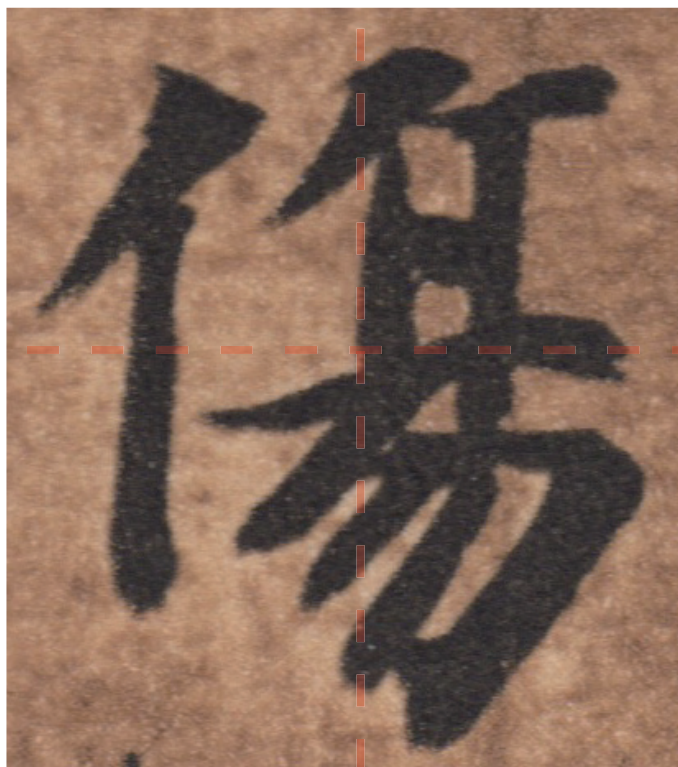
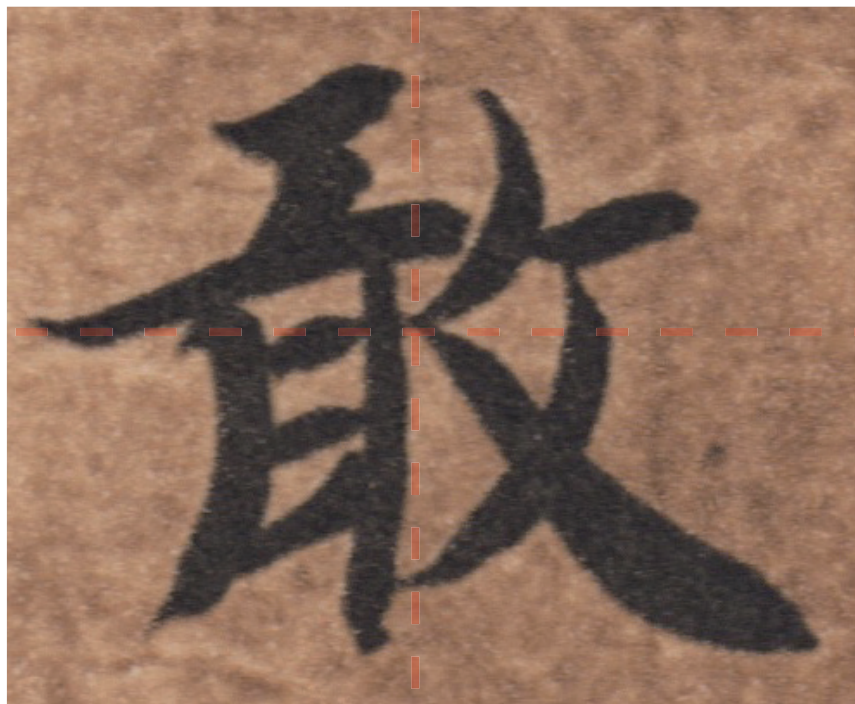
おも

ふ。



冬

支



豈

あに

敢

あえ

て
毀

きし
よう

傷

せんや。

どうして我が身をそこない傷つけることがあるのか。

陽